

白血病 初期症状は…

室蘭でフォーラム 治療法を説明

熱・動悸・歯茎から出血

室蘭市内の行政機関や医療機関、患者団体、報道機関などによる「室蘭がんフォーラム」(会長・野尻秀一会長室蘭市医師会長)の第18回会合が27日夜、同市東町の保健センターで開かれ、競泳女子の池江璃花子選手(18)も治療を進めている「白血病」について理解を深めた。

(松岡秀真)



出席者が「白血病」の症状や治療法などに理解を深めた「室蘭がんフォーラム」の会合



各機関の代表ら25人が出席。製鉄記念室蘭病院血液腫瘍内科の吉田正宏医長が、白血病の初期症状や治療の現状などを解説。一週間前から熱が続く、少し動くだけで動悸がする、歯茎から血が出やすい…など、白血病は「何気ない体調不安で受診して、検査して、分かるケースが大半」となどと説明した。

また、一日単位で症状が進む急性白血病では、抗がん剤を用いて、血中にがん細胞が確認できない「寛解

を経てから、「地固め療法」を行うなど、体内の白血病細胞をゼロにする治療を説明。ただ、この治療は「抵抗力が落ちるため、無菌室で過ごす必要がある。発熱や食欲不振、口内炎、脱毛などの副作用にも耐えないといけない」と、治療のつらさにも触れた。

さらに、遺伝子変化の種類などのタイプによって、用いる抗がん剤も異なり、骨髄や末梢血幹細胞、臍帯血の「造血幹細胞移植」で完治を目指す治療も説明した。

一方、室蘭保健所の廣島孝所長は、池江選手の公表後、骨髄を提供する「ドナー(提供者)登録」への関心が高まっている全国的な動きにも触れ、西胆振管内でドナー登録を担う同所にも、「問い合わせが多くなっている」と説明した。